

平成27年度 学校自己評価システムシート(県立深谷商業高等学校 情報会計専攻科)

目指す学校像	本校の輝かしい歴史と伝統の上に立ち「至誠・士魂商才」の校訓のもと、「中学生が、あこがれを持って目指す学校」、「企業から信頼される生徒を育てる学校」、「地域に貢献し、支援される学校」、「生徒、教職員が生き生きと活動する学校」を目指す。
--------	--

達成目標	1 商業に関する知識と技術をバランスよく備えた人材を育成する。 2 関係機関との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。 3 専攻科の特性を生かした進路指導の充実を図る。 4 生活指導を充実させ精神の修養を図る。
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価(2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教育課程に基づき授業が展開され簿記会計および情報処理に関する実践的な知識や技術をバランスよく学習している。 実務で通用する知識や技術の習得を中心に授業展開を行い、検定資格取得のための学習に偏らない授業を行っている。 経済活動に必要な知識や興味を持たせるためNIEを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容が実務の実態に合っているか。 教科指導力の向上のため、教員等が研鑽と修養に励んでいるか。 学生が目的意識を持って学習に取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職後の業務等で役立つ「実」のある授業を展開し、学習意欲を高める学習活動を実践する。 商業教育に対する意識を変えるため、検定取得に傾倒した学習から脱却し、商業の基本を理解させる指導を常に研究する。 発問や対話による授業展開や新聞紙面等を利用した時事的課題を取り入れ、学生自らが参加し考える授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> より実践的・実務的な指導を目指した授業が展開されているか。 各科目において基礎基本の理解がなされているか。 各学生への発問や対話を、バランスよく取り入れているか。 学生の学習状況を把握できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 会計分野では取引の基本や実務の流れについて学習させ、1年生は日商簿記3級に受験者全員が合格。2年生は日商簿記2級に5人中4人が合格した。 情報分野ではコンピュータ実習を中心に行い、実践的なコンピュータの活用方法を学ばせることができた。 ITパスポート試験に2年生が4人合格した。 授業でNIE、読書、プレゼンテーション、一般常識などを取り入れている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新しい教育課程での学習により実践型の授業展開が図れている。 資格取得については最低限必要とされる基礎的な資格に絞り学習指導を行い、着実に取得させている。 学校目標の実現に向けた授業体系を完成する必要がある。少人数教育の強みを活かし、職員が協力し、こまめに連絡を取り合いながら議論を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい教育課程での学習によって、専攻科の特色を失うことなく実学が身につく学習指導をしてほしい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 実務経験豊富な特別非常勤講師の協力を得て、教育力の向上に取り組んでいる。 育友会組織と連携を図り、保護者や学生の意見を反映させ、開かれた学校づくりを推進している。 高校との連携・接続を図るため、長期休業中の特別講義や部活動指導を行い積極的な交流を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校に不足している点を補い成果を評価するため、関係各機関との適切な連携が図れたか。 保護者の意見を反映させる場として「育友会」が機能しているか。 学生の現状、本校に対するニーズや期待を把握しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会役員をはじめ、保護者が学校と関わる機会を設ける。 学校見学会や説明会を早期から開催し、高等学校への訪問や郵送による広報活動を行う。 ホームページを通して積極的に学校情報を公開する。 学生の要望を取り入れる機会を作るため、学生と面談を行う機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会の案内を配布したか。 育友会役員や保護者の学校行事等への参加状況はどうか。また、意見の取入れを行ったか。 高校訪問やパンフレット等の送付をどれくらい実施したか。 学校説明会の実施と参加状況はどうか。 ホームページの更新は行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集活動を積極的に行い、新たな教育課程へ移行したことを周知した。そのため、商業高校以外の学校である農業や総合学科、普通高校等からの受験があった。 育友会総会後に担任と保護者による面談の機会を設け、相互理解の場を設けた。 育友会役員の方々に入学会、修了式へ参加いただき、多大なるご協力を得た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実務に即した実践的な授業を行っていることを商業高校にPRする必要がある。 育友会の役員や保護者と積極的な交流の場を設け、専攻科の教育内容について理解を求めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 専攻科の特色が認知されていない。取組について積極的な情報発信をしてほしい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習活動を踏まえ、バランスの良い簿記会計及び情報処理の知識を活かした就職の実現を図る進路指導を行っている。 多方面にわたる就職先をより多く確保するため、ハローワークとの協力関係を一層深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に連動した進路指導が行われているか。 就職活動の取り組みについて適切な進路指導が行われているか。 学生の就職活動を支援する環境が確保されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンスを早期に実施し、就職活動に対する不安をなくす。 企業見学会や就職セミナーに積極的に参加させる。 必要に応じ個別面接指導を行う。 ハローワークとの連絡調整を密にし、就職支援や求人情報の活用を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内ガイダンスを開催して進路に関する適切な情報を説明したか。 企業見学会やセミナーの参加報告を提出させ、確認したか。 就職希望者全員に面接指導を実施したか。 特別非常勤講師等からの就職先の紹介や協力はあったか。 ハローワーク等を活用した就職情報が提供できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月にハローワークと協力して就職ガイダンスを行い、早い段階での就職活動への意識付を行った。 生徒の状況に合わせて個別に履歴書指導や面接指導を行った。また、企業見学や就職試験の後には必ず報告書の提出をさせた。 進路については就職1名、専門学校1名、未定3名である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動に対して積極的に行動させる体制を整える必要がある。 情報分野と会計分野をバランスよく学習した強みを企業にアピールし、今後の専攻科生徒の就職につなげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 専攻科の進路指導は難しさがあるようだが、専門性、資格取得を活かした進路指導を継続してほしい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出る前の準備教育として、社会人として好ましい態度と自覚を深めるための取り組みをしている。 在学中や進路先で心身ともに健康で健全な生活が送れるように、学校行事や日常の活動を通じて健康増進や体力向上に取り組めるような組織的で計画的な活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通じて、コミュニケーション能力やビジネスマナーが身につけているか。 自己の健康管理に対する意識付けにより、自らの健康を守る態度が身につけているか。 適時、適切に学校行事や健康増進に向けた取り組みは行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 対職員、対学生への挨拶を習慣化させる。 職員室当番により、職員や講師とのコミュニケーションを通して接遇マナーを身につけさせる。 上級生主導による清掃活動を行い、学ぶ環境を自らの手で清潔に保つための能動的清掃活動を実施する。 体力向上と健康管理に対する意識を高めるため、運動を定例化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の習慣が確立されたか。 接遇マナーが身に付き、職員や講師に対して適切な態度や会話は行われているか。 清潔で、明るく、秩序ある生活環境が維持されているか。 運動の定例化、学生の参加率向上に向けた職員の協力が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で挨拶を行うように心がけているため、生活全般を通じて挨拶をする習慣が定着した。 上級生が中心となって下級生を指導する体制が確立され、職員室当番や清掃活動での指示伝達を効率よく行うことができた。 生徒の体力向上のための運動は参加率を向上させることができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内の風紀をより良い状態で継続するために生徒が中心となり、積極的に挨拶や校内美化を行っている必要がある。 生徒の就職活動や就職後の社会生活に活かせるように定期的な運動を計画し、基礎体力を向上させる取り組みを取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスマナー指導は成果が出ている。専攻科の特色の一つとして継続してほしい。